

編者と執筆者の紹介

田中 樹（たなか うえる）

総合地球環境学研究所・客員教授、ベトナム・フエ大学名誉教授。専門は、環境農学、土壌学、地域開発論。アフリカやアジアの在来知に学び、人びとの暮らしと資源・生態環境の保全が両立するような技術や生業を創り出す研究に取り組んでいます。

宮寄 英寿（みやぎき ひでとし）

国立民族学博物館・外来研究員、一般財団法人地球環境人間フォーラム・フェロー。専門は、境界農学、環境土壌学。アジアやアフリカにおいて家畜糞尿を介した牧農共存のあり方に関する研究、国内外において雑穀研究、生業活性化に関する研究に取り組んでいます。

石本 雄大（いしもと ゆうだい）

青森公立大学・地域連携センター・専任研究員。専門は、生態人類学、アフリカ地域研究。アフリカ半乾燥地や日本の過疎地域において生業（なりわい）と食の研究に取り組んでいます。

關野 伸之（せきの のぶゆき）

日本学術振興会特別研究員（東京大学）。専門は、環境社会学、アフリカ地域研究。西アフリカの水産資源管理や北海道東部におけるラッコと漁業の共存などを研究しています。

飯塚 明子（いづか あきこ）

宇都宮大学留学生・国際交流センター・助教。専門は防災、災害復興、国際協力学、地域開発論。国内外の災害被災地における復興や地域開発の研究に取り組んでいます。

真貝 理香（しんかい りか）

総合地球環境学研究所・外来研究員。専門は、動物考古学、生態人類学。食を切り口として、縄文時代の狩猟採集活動、山間地域の伝統的生業を研究してきました。現在は、人とミツバチとの関わりから、環境問題の解決をさぐっています。

村山 修二郎（むらやま しゅうじろう）

秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻・准教授、美術家。専門は、絵画、コミュニケーションアート、幼少造形教育。植物に内在する初源的な力を抽出した作品制作、社会地域活動、教育に取り組んでいます。

渡邊 芳倫（わたなべ よしのり）

福島大学食農学類準備室・准教授。専門は、環境保全型農業論、土壌学。山から水田までの農地環境から保全的で持続的に利益を得るにはどうしたらよいか？をテーマに、里山や田畑の環境とその管理方法を研究しています。

記事への謝辞：この記事を書くにあたり、川口由一さん、赤目自然農塾のスタッフの皆様、ナミビア大学のワークショップ職員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

大谷 通高（おおたに みちたか）

総合地球環境学研究所・技術補佐員。専門は、社会学、男性学、ジェンダー論。ジェンダーの視点から、人と自然との関わり方や、人の生き方について考えることに興味をもちています。

高木 佳子（たかぎ よしこ）

2007年3月から青年海外協力隊としてベトナム社会主義共和国で活動したことをきっかけに、同国トゥアティエン・フエ省で社会的弱者支援に取り組んでいます。2018年 京都大学地球環境学舎修士課程修了。

岡本 侑樹（おかもと ゆうき）

京都大学大学院地球環境学堂・特定助教。専門は、アジア地域研究、海洋環境学、水産資源保全論。水産・漁業による生態環境負荷の低減と所得安定に向けた身近な技術や、陸域で実施されているプランテーション農業がもたらす沿岸域への影響、水産資源との関係性について研究しています。

寺田 匡宏（てらだ まさひろ）

総合地球環境学研究所・客員准教授。専門は、環境学、歴史学。語り（ナラティブ）の視点から、「わたし（意識を持った人間という存在）」が「世界（自分以外の外部の世界）」と関わる関わり方として「環境」をとらえたいと思っています。また、アンソロポシーンや環境の未来の語りに関心を持っています。

砂野 唯（すなの ゆい）

名古屋大学大学院生命農学研究科・特任助教。専門は、生態人類学、地域研究。アフリカとアジアにおいて、どのように地酒が誕生し、飲酒と食文化が成立していったのか調査しています。

庄子 元（しょうじ げん）

青森中央学院大学・経営法学部・助教。専門は、人文地理学（農業・農村分野）。日本国内やア

ジア、アフリカにおいて食料の生産と流通の組織化を、関係者の利害関係の調整という視点から研究しています。

記事への謝辞：この記事は、JSPS 科研費（16H05685）の成果の一部です。調査に協力して下さったモンゴルの方々に感謝いたします。

関根 良平（せきね りょうへい）

東北大学大学院・環境科学研究科・助教。専門は、環境地理学、経済地理学。日本やアジア農村の就業の変容やそのあり方、地域資源との関係、東日本大震災からの就業の復旧プロセスなどについて研究しています。

記事への謝辞：同上

風戸 真理（かざと まり）

北星学園大学短期大学部・専任講師。専門は人類学。東北アジア地域の越境森林草原火災の研究、モンゴル国と中国内モンゴルとをつなぐ畜糞燃料とその香りをめぐる民族アイデンティティの研究、モンゴルと日本での動物飼育・食習慣・身体装飾に関する比較文化研究に取り組んでいます。

石山 俊（いしやま しゅん）

国立民族学博物館・プロジェクト研究員。専門は、文化人類学、環境人類学、アフリカ、アジアの乾燥地の農村で、農業、農民、文化とその変容の研究をしています。4年間の日本の農村生活をきっかけに、地域活性化のキーパーソンとなる「篤農家」の研究もおこなうようになりました。

大門 碧（だいもん みどり）

北海道大学・国際連携機構・特任助教。専門は、地域研究、都市人類学。アフリカ都市の暮らしに、エンターテインメントをつくりだす様子からアプローチする研究に取り組んできました。調査地はウガンダの首都カンパラですが、現在は生活拠点であるザンビアの首都ルサカからフィールドのことを考えています。

大平 和希子（おおひら わきこ）

東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム博士後期課程。専門は、アフリカ地域研究、政治学。アフリカ農村部に暮らす人々にとって、また、国家にとって「伝統的権威」とはどのような存在なのか。その関係性に興味があり、ウガンダ西部ブニョロキタラ王国の研究に取り組んでいます。

山根 裕子（やまね ゆうこ）

日本学術振興会特別研究員。専門は地域研究、熱帯農学。アフリカの農村での住み込み型の調査を通じ地域の人々の暮らしや農業の仕組みを明らかにする研究に取り組んでいます。最近、途上国の農業への適切な技術支援の在り方について考えることをテーマとした研究に取り組んでいます。

藤本 麻里子（ふじもと まりこ）

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・研究員。専門は、アフリカ地域研究。アフリカや日本の漁村・漁業立地地域において、小魚・雑魚漁と加工産業に関する社会・経済的研究を行っています。

記事への謝辞：この記事は、総合地球環境学研究所「砂漠化をめぐる風と土と人」プロジェクト、および科研費（12J04503、17K15330）の成果の一部です。

福田 聖子（ふくだ せいこ）

日本大学生物資源科学部・国際地域開発学科・国際協力研究室・助教。JICA青年海外協力隊、研究員を経て、現在もアフリカの果樹栽培普及に関する研究に取り組んでいる。

中尾 淳（なかお あつし）

京都府立大学・准教授。専門は、土壌化学。環境を支える土の役割や土がつくられるしくみ、土と大気や水とのかかわりについて研究しています。

記事への謝辞：この記事は、科研費（20248034）の成果の一部です。

遠藤 聡子（えんどう さとこ）

内閣府大臣官房企画調整課野口英世アフリカ賞担当室・主査。専門はアフリカ地域研究。アフリカのプリント更紗「パーニュ」を用いた衣服とそれを作る仕立屋のように、アフリカの文化と、それを支える人の仕事に関心があります。